

会報 第28号

● 発行者 ●
栃木県立真岡北陵
高等学校同窓会
● 編集 ●
同上編集委員会
● 印刷所 ●
(株) 杉山印刷

明治四十一年に創立された本校も長い年月と歴史を重ね、三年後の平成十九年には百周年を迎えようとしております。

明治・大正・昭和を経て平成の世となり、この間、時代とともに学校教育の内容も大きく変貌し、本校も単独農業高校から総合選択制専門高校へ、そして、平成十七年から二十六年にかけての県立学校再編計画とも相まって、平成十六年度からは商業系二学科が一学科に統合され、総合ビジネス科となります。昨年九月に発表された前期計画のとおり、県内全日制六十八校が七校の統合により六十一校に再編され、さらに後期計画では三校が統合され、再編終了時には五十八校になります。

私は、昭和四十年代の初頭に教員としての第一歩踏み出しましたが、当時はこのように学校を取り巻く環境が激変するとは夢にも考えておりませんでした。しかし、政治経済・社会の環境が変わろうとも、芳賀地方の発展と繁栄のために一世に渡って貢献してきた本校は、今後ともこの地方にとってなくてはならない存在です。

百周年を間近に控え、本校の過去の歴史を思い起こすとともに、今後の本校のあるべき姿を明確にしていく必要があります。平成十六年度の入学生からは農業系三学科商業系一学科・福祉系一学科の五学科体制となります。これらの五学科がそれぞれの学科の目標をもう一度見直し、長所を伸ばしながら、しかも有機的に結びつき、地域の発展に貢献できるような教育活動を展開していきたいと考えています。幸いなことに、一万五千有余名の卒業生が校訓である今日あるを感謝し最善をつくすを胸に、芳賀の大地にしっかりと根を下ろし、政界・経済界・産業界はもとより教育界で活躍しております。創立百周年を迎えるに当たって、同窓生諸氏お力添えを頂き、明治四十一年創立時から現在までの本校の歴史を紐解きながらまとめ上げ、特に終戦前後の困難な時代に、芳賀地方に溜まらず、本県発展のためにご活躍なされた方々や当時の在校生の様々な体験をお寄せ頂き、本校の輝かしい歴史を記録として残したいと考えております。

過去をしっかりと認識することが、新しい時代に対応する早道であると確信しております。

本校教育に対する同窓生諸氏のご理解と多大なご支援とに深甚より感謝申し上げますとともに益々のご活躍、ご健勝とを祈念申し上げ結びとさせていただきます。



学校長
高根沢 久 岡

創立百周年に向けて

一つの時代が終り、次の時代の始まりと言う実感が肌で感じられる今日この頃ですが、とりわけ足銀の破綻はその最たるものでありましょう。県を始め大多数の市町村は公金を取り扱っている銀行はつぶさないだろう、と誰もが思っていたに違いないのです。

むかしから「賢者は歴史に学べ」と言う諺がありますが、昭和四年に金融恐慌が発生して下野銀行が倒産し、真岡を始め県内の多くの人たちが塗炭の苦しみを経験されました。七十年前の出来事です。歴史は繰り返すと言いますが、諺通りのことが起きました。

七十年という数字を追って見ますと、幾つかの歴史的大事件が浮かんできます。一つには明治の新政府が徴兵制度をつくらせ、イギリス、フランスの教官を招き、陸海軍を創設しました。それから日清、日露の戦い、さらに支那事変から第二次世界大戦へと戦争がエスカレートしましたが、昭和二十年八月、世界に冠

た（当時）日本陸海軍は敗戦で消滅したのです。この歴史も七十年で終りました。もう一つ、ロシア革命が成功しソビエト連邦という社会主義国家が出てきましたが、七十年で崩壊しました。このようにみてまいりますと、思想やそれに基づく制度や仕組みも七十年前後で社会に合わなくなってくるでしょう。

いま、戦後六十年を経て、大革命の時を迎えたのは歴史的必然の原理からなのでしょうか。これから次の七十年の始まりです。従来の発想を変え勇気を持って事にあたれば必ず道は開けると思い

ます。本校にも一〇〇周年の大きな節目が来ます。日本の農政は常に米そのものでした。家族労働で親から子へと、水田を継承して生計を立ててきたのですが、農産物の国際市場化が進み、農産物の値下がりや日本の小規模経営は特別の人たちを除き成り立たなくなっていました。農業教育も当然変らざるを得ないと思います。

これからは本校も進取的な気概を持った、広い意味での産業人の育成が校是となるでしょう。更に一層の北陵高校の発展を祈り稿を終ります。



同窓会会長
小坂 利 雄

歴史に学ぶ

ば必ず道は開けると思い

ます。本校にも一〇〇周年の大きな節目が来ます。

日本の農政は常に米そのものでした。家族労働で親から子へと、水田を継承して生計を立ててきたのですが、農産物の国際市場化が進み、農産物の値下がりや日本の小規模経営は特別の人たちを除き成り立たなくなっていました。農業教育も当然変らざるを得ないと思います。

これからは本校も進取的な気概を持った、広い意味での産業人の育成が校是となるでしょう。更に一層の北陵高校の発展を祈り稿を終ります。

更に一層の北陵高校の発展を祈り稿を終ります。

部長に就任して

青年部長

平成七年度卒

田 崎 秀 一

平成十五年四月より同窓会青年部長に就任しました田崎です。よろしくお願いたします。

本年度活動におきましては、同窓会役員の先輩方事務局の先生方、また同窓生の皆様方には、日ごろより暖かいご指導をいただきまして厚くお礼申し上げます。

さて、本年度は役員改正があり新役員体制となつたわけですが、真岡農業高校から真岡北陵高校へ編成があったときの卒業生で構成されております。私自身も、真岡最高後の卒業になりました。

学校の再編成というのはその時代を大きく反映しているものだと感じています。青年部役員においても、農業だけではなく多岐に渡る職業についており、個々の仕事の都合を調整していただき青年部活動に参加いただいております。

今年度の青年部活動では、前年度同様、役員会（親睦会）を中心に役員間の交流を深めつつ、学校行事への参加をいたしました。学校祭での模擬店（焼きそば）出展では、昨年は寒い中の販売となり、今年は青年部のトレイナーを作り寒さに備えていまして天候の不順が影響してか、昨年度より暖かい中での学校祭となり、学校祭が盛り上がり

ます。以上、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

部長挨拶の中ではありますが、今年度協力いただいた役員の紹介をさせていただきます。

祝 叙勲

叙勲の栄に浴して



昭和二十四年度卒
高橋 弘一

平成十四年十一月三日
地方自治功勞として勲五等瑞宝章の叙勲の栄に浴し、十一月六日県公館に於いて、福岡県知事より勳記勲章の伝達を受け、十一月十一日皇居宮中春秋の間に於いて天皇陛下に拝謁を受けお言葉を賜



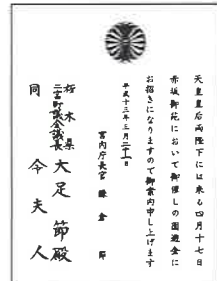
「園遊会に招かれて」

昭和二十五年度卒
大 足 節

この度、本校同窓会、長沼支部長に就任いたしました大足でありました。私は、昭和二十五年度の卒業生です。終戦直後の本校には、農機具一つ無く、緻・万能・謙などを生徒が自宅から持参し、農場まで通ったものです。汽車通のみんなは特に苦勞が多かったこと、今では考えられないことでした。

卒業後は地域にあつて、青年団活動、農研クラブ活動などを通して、経営改善や仲間づくりに勤めてきたところです。

昭和五十年、父、好（第六回卒業生）の後継者として町議選に出馬し、四十二歳で初当選いたしました。現在、八期目を在任中です。



議員に初当選以来二十八年間の永きに亘り多くの皆様方のお支援を頂き遺憾のあつた議員活動が出来たこと心から感謝申し上げます。永らく議会制度の高揚地域の振興に住民福祉の向上に、尽された功績により全国町村議会議長会より特別表彰を授章したことが叙勲に浴されたと思ひます。今後この榮譽に恥じることなき様一層精進し地域社会の発展に微力を尽くして参ります。

私は昭和二十一年四月八幡の丘、学舎の真岡農学校に入学。当時は戦後頭の中が真っ白になるほどの感激をいたしました。私にとって一生の思い出であり、今もなお有難さがよみがえってきます。

現在、地方行政は合併を初めとして、多くの課題に取り組んでいます。芳賀郡市に於いては、本校出身の議員さんが数多く在任中ですので、心強く感じています。

残された任期を地域住民の福利のため精一杯努力していきたいと思ひます。

創立百周年を迎える本校のますますの発展を祈念いたします。

議長就任 おめでとう

母校の思い出と議会活動

昭和二十二年卒
浅山 俊夫

私が本校に入学したのは、戦後の物不足時代から、やっと脱して、経済の成長期に入り始めた昭和三十年四月でした。

当時の農業情勢では、食糧増産時代であり、米一俵三千円でありました。七桁農業（年収百万円以上）を目指し多角経営を奨励した時代でした。

農場での実習や、野菜や畜産担当の先生と共に、自転車を踏み宇都宮近郊のキウウリやトマトの促成栽培をしている篤農家や、市内の酪農家を視察して、栽培技術や経済努力を勉強して歩いたこと

当選おめでとう

尾羽の里と果樹団地



昭和二十六年卒
谷 中 勝 衛

学窓を去って早や半世紀、行きかう年月が流れあ、昭和の激動期も忘却となりつつ、地域産業の根幹である農業が、内外の大きな荒波に遭遇し重大な時代を迎えていますが、生命の根源である食糧の生産と農村地域活性化のため、尚一層の終

営改革に取り組んでいかなければと思うところであります。

さて、芳賀地域を縦走する真岡鉄道、懐かしいSLがホームに止り観光客が降りる駅、文化と陶の里、益子の駅で、雄大な二本の塔の駅とも別れ益子焼の並ぶ店や、共販センターの大たぬきを見ながら東南へ約六キロ。途中大きな坂を越えたと道は山裾を走り大羽の地

昨年五月の臨時議会に於いて、議長に推挙されて就任いたしました。

私は市民誰もが等しく市政の恩恵を受けられることを基本に活動しております。また市議会議員二十六名中、十名が本校の同窓生であり、協力し合って活動していることを力強く、しかも、誇りに思っております。

議長に就任してからは、本会議や常任委員会の他に行政推進に伴う各種の会議や行事、対外的な会議等への出席が多忙な日々であり、ひとつひとつが勉強の毎日です。

真岡市は、議会も執行部も、地方分権に対応した市町合併は芳賀広域一市五町での合併が望ましいとして、各町と意見交

が開けてくる一帯が、悠久の歴史を刻む建造物や文化遺産を今に伝えている上大羽、この地が緑豊かな山並と大羽川の清流に恵まれた尾羽の里であります。

かつては県内有数の業たばこの生産地でしたが時の流れには勝てず、変わって地域の特性を活かした観光農業として、果樹団地が造成され果樹の里として、果樹の里として、ぶどう、梨、りんごなどが栽植され、農協による直売所も設置され入園によるもぎ取りと直売方法で観光協会等との連携を取り合いながら運営されています。

又、町が地域の拠点施設として、歴史と文化の里に相応しい建物が尾羽の里交遊館として、周辺の地域の遺産や歴史的資源自然景観の保全、都市と農村の交流及び観光客の休憩所として、月曜日を除き訪れる人に開放されています。

施設のすぐ東側の高台には、下野宇都宮城主、初代宗円から三十三代政網に至る代々からの五輪の右塔が配置され、宇都宮家墓地として、県の文化財に指定されています。

墓地の南方には建久五年（約八百年前）の創建と伝えられる阿弥陀堂式の優雅な建造物が、国指定重要文化財の地蔵院本堂で、宇都宮朝綱の開山と云い伝えられています。

墓地と地蔵院の中間の朱塗りの鳥居をくぐると大木の中の参道、一〇〇余の石段を登りつめると地蔵院と同年代に朝綱によって創建された、網神社があり本殿は三間社流造り屋根茅葺建築で、室町時代の様式が随所に残されており、国指定の重要文化財となっています。

以上大羽の里の一端につきご紹介させていただきましたが、地域として果樹団地の更なる育成と芳賀台地用水の有効利用による、田畑振興対策について、関係機関と検討中であり豊かな自然と、恵まれた歴史、フルーツランド尾羽の里づくりが大きな一歩踏み出し、これからの成果が期待される地域であります。

真岡北陵高等学校

創立100周年が平成19年度です。

---カウント・ダウン---

1世紀の重み、蓄積、貢献
次の世紀への胎動、飛躍、発展
あと4年です！皆で喜び合ひましょう。
手に手をとって祝ひましょう。



母校の思い出と作今

昭和三十五年卒業
仙波 義身

私は昭和三十五年三月卒業で当時の農家の跡取りとして農業経営全般の基礎を学びました。水稲畑作、果樹、畜産、花卉園芸、タバコと当時の真岡農業高校の農場施設は良く整備された農場であり全国的に見て素晴らしい農場を持つ学校である

と高く評価されていました。各部門、クラブにおいても研究熱心で関東大会、全国大会には出場のたびに輝かしい成績を収めてきました。私も母校に入学してから、いろいろと想い出がありますが、



我が半生をふりかえって

昭和三十六年度卒業
佐藤 房治

私は昭和十八年農家の長男として生まれ父は私が一才半の時に戦死してしまいました。その後母に養育され、物心ついた頃より母を助け家をまもっていかねばならぬという子供心に思うようになり、農業高校に通うようになり、春には麦作の手入れ、そして秋には稲の収穫と、私の友達は私の家に泊まりよく農作業を手伝っていたのだと思います。今でもこの人達には感謝をしている所です。

発展の途上にありました。私の営んできた経営は大変小規模経営であり、水稲、しいたけ、和牛の肥育、露地ギク等の複合経営で営んでいました。平成七年の統一選挙に初当選し今日まで九年間地方政治に携わり地域の要望、町民の声を行政に反映させながら地域の発展に取り組んできました。長引く景況低迷の中で国も町も今日、大きく変わろうとしています。地方分権に対応した行政の改革、財源の効率的な使途、都市機能が充分生かされる町づくりの推進、少子高齢化や環境の問題に対応できるように各市町では合併研究会を設けて、協議されているところです。又、関東自動車道の完成によっても芳賀郡の各町においても高速道路の利用度が高まり、経財政の効果地域の発展活性化の源になると思っています。これらの構想の中で芳賀地域の将来をよく見据えた合併を進めていかなければならないと思っています。



私の歩み

昭和三十九年度卒業
鈴木 智明

私は戦後まもない昭和二十一年八月農家の長男として生まれ当時は当然のように農家の長男は農学校と言われ本校「旧真岡農業高等学校」に入学、農業の未来に夢と希望を持って通い「七桁農業経営」の教えを受け勉強に農作業実習に汗を流し三年間自転車通学し四十年三月卒業し、早いもので三十九年の才月が過ぎようとしている今日、学校での農場宿泊当番の共同作業、共同生活、修学旅行の帰りの電車の中の朝のニュースで米国ケネディ大統領暗殺に驚き東京オリリンピックを本校生徒が地域ごとに集まってテレビ観戦したことが思い出されます。卒業と同時に就農し、米十たばこの複合経営に取り組み両親



行政と住民の距離をより近いものに

昭和三十六年度卒業
豊田 征巳

「松無古今色（まつにここんのいろなし）」と読みます。茶席に掛けられる禅語の一行物ですが、松はいわゆる常緑樹で、その色を変えることはないので人間の平等を表わしています。そしてこの句には「竹有上下節（たけにじょうげのふしあり）」という対句があることを知りま

て町議に初当選し町民の代弁者として町政に携わり現在三期目に入り、現在総務常任委員長、議会だより編集委員長の職に有り町民が真の豊かさを実感できる町政を目指し町民の声や要望が反映できるように日々努力をしてきました。国の行財政改革と共に平成十一年に地方分権一括法が制定され二十一世紀は地方の時代と言われ、受け皿となる地方自治体の行財政基盤の拡充と自立能力の向上を目指し今、市町村合併が求められ芳賀一市四町の合併に向け、十二月に合併協議会設置案件が議決され一月から協議会が開催されます。私も協議会委員として新市建設計画の策定にかかり合併により住民が新市になって良かったと思えるよう取り組んで行きたいと思っています。

とめたい句です。人間の理性を信じて、玩味したい句ということではプロローグとして挙げてみました。さて、わたしは昭和三十七年三月に卒業し、十年余就農しましたが、種々の事情もありまして、昭和四十八年四月に、二宮町役場に就職しました。主に社会教育に籍を置いて仕事を参りました。が、その間素晴らしい人達に出会いました。そして、わたしは浮かんできたのは、仕事は「きまり」でするのではなく、



PTA会長あいさつ

PTA会長 関戸良一

今や本校は、もうすぐ百年の歴史を、向かえようとしている。明治、大正、昭和、平成と四時代を生きてきた本校は、歴史と伝統と共に、大いに社会に、貢献出来る、人材を社会に送り出したと言っても、過言では、ないでしょうか。日本の将来を担う世代の問題について、すでに日本自身が、最も、悩まされていることは、高齢化が進展で若年労働者が激減し、労働人口の重心は、ほとんど高齢者側にシフトしている今後二十一年で八十才まで上がると私は、予測している。

「青春」とは、夢、野心に満ち、疲れを知らぬ世代であります。感受性人間がするのだということ。このような受けとめ方ができたのも、十年余にわたる就農の経験、つまり自然の畏敬の中で培われた情緒であろうと思うのです。

当選おめでとう



常に、一期一会の気持で
昭和三十九年度卒
小杉 守利

昭和四十年三月に、本校を卒業して、早いもので、四十年近くになりました。私は益子町でしたので、通学は真岡鉄道を利用し、朝は七時四十分の汽車に乗り、帰りはクラブ活動をし、当時私は、吹奏楽部に入り、毎日練習をし、六時三十分の汽車に乗って帰る。三年間そのくり返したような気がします。当時は農場の宿泊当番が、年に何回もあり、夜遅くまで、友と語った事が昨日のような気がします。当時を思い出すと、その時の気持ちにかえれます。生徒会役員に立候補し、生徒会長として、一年間経験しましたが、たった一年間ではありましたが、私の人生において、色んな意味で、良い経験だったように思われます。当時は世の中の景気が上向いている時代でしたので、卒業生も、全てが就職と言いますが、私は迷わず就農を決意し、当時無利子の後継者育成資金を借りて、養鶏を始めました。ヒナを二千羽買って、半年間育て、一年目で借金を返せた記憶があります。当時は、養鶏に限らず、畜産関係全てが良い時代でありました。十五年位で卵の低産でやめました。以前から耕作をしていた、たばこ作を規模拡大し、水稲、麦の栽培をしています。たばこ栽培は、以前は色んな作業面で、手作業が多く大変でしたが、今は機械化、コンピューター化され、随分と省力化されました。ただ、たばこは、腋芽をいかけても、かいても何度か出て来る事です。その作業が一番の労力で、大変な事でありました。私はその作業を、なんとかして、ゼロにしたいと思っていました。今から十五年位前になります。が、葉の倍率、量、位置：等、試行錯誤をし、五年位は、色んな失敗をしました。それが、それ以後はあまり失敗をしなくなり、今では、芽かき作業ゼロに、絶対的な自信を持って行い、他人にも教える事が出来るようになりました。労力軽減は、目を見張るものがありました。私は、一期一会という言葉が大好きであります。その時その時を、一生懸命に生きたい、今日まで、農業一筋にやってこれたのも、本校の精神と、多くの経験と友人が、基盤になっているような気がします。私も、平成十五年四月、多くの方々の御支援をいただき、議員となりましたが、地方自治体の当面の問題として、市町合併があります。芳賀郡におきましても、各々推進に向け協議を開いている所です。共存

優良農家紹介



我が家の農業
昭和四十三年度卒
高松 一夫

私は昭和四十三年に本校畜産科を卒業し、早や三十五年の年月が過ぎようとしています。卒業当時我が家では両親が、酪農、米、麦、落花生の複合経営をしていました。当時八頭の乳牛を飼っており、私が結婚する期に落花生の生産を中止し、成牛を十五頭に増やしました。当時の乳牛は現在に比べるとかなり高値で取引され、また現在の様に牧草等の給与もせず、飼料費がさほどかからない時代でも有りませんでした。その後、麦作を中止して昭和五十二年に十頭増頭し現在に至っております。(成牛二十八頭、育成牛十頭)現在飼っている乳牛の九割は自家産で、今後も飼いやすく産乳量の期待できる牛の改良に努めたいと思っています。増頭をした昭和五十年代後期には、思いもよらぬ生産調整が始まり、せつかく搾った牛乳を捨てる事態にまでなりました。共栄、行政がくまなく等しく行われるよう、議員活動を行う覚悟であります。北陵高校と同窓会の益々の発展を、お祈り申し上げます。



夢・希望・魅力ある、農業経営
昭和五十三年度卒
飯山 克則

私は本校を卒業し県農業短大に進み就職しました。経営内容ですが、水稲三・二ヘクタール、イチゴ一ヘクタールを営み、他に仲間三人で営農集団を作り受託組合を営んでおります。営農集団の始まりは、農機具の設備投資を少しでも軽減しようと考え結成し十五年が過ぎようとしています。現在は稲刈りを中心に、地域農業発展のために運営している訳ですが、米価が下がっても対応できる様、足腰の強い経営を目指しております。両親は水稲を中心に農業を営んでおりましたが、減反が始まり米価の価格低迷で、少しづつイチゴの作付けが増え現在にいたっています。今の農業状況を考えますと、外国産の生鮮野菜の急増による国内産の価格の低迷や不安定な米政策、今や価格の安定などは期待できなくなり、そこに現在の経済状態です。そんな中で農業は昨今騒がれている無

登録農業問題と残留農薬問題です。今までの意識とは違い使用できる物とできない物とを区別しなくてはなりません。ですが、これを期に国内産の農作物が絶対に安全だとアピールをし、外国産の物と差別が、出来るよう、より安心・安全・減農薬で作った作物は消費者の信用を得られれば売れるという事です。今や経済の低迷もあり農業も見直されています。どんな農業をやりたいという後継者も増えUターンや新規就農者も増えて、まだまだ夢や希望を持つていけば魅力ある農業は出来ると思います。私も

その中で二年前に現在の経営を安定と発展させるため農業生産法人、有限会社イイヤマ農産を設立しました。今や農業は新たな時代に入り考え方しだいではもっと伸びる可能性があると思います。ハウスでも環境面などを考え、高設栽培などが普及しつつありますが、今後システム、マニュアルが確立すれば、もっと農作業が改善される事でしょう。そうする事により農業に対するイメージアップにもつながり農



業を目指す若者達に技術を提供する事ができ、より夢・希望・魅力の持てる農業が近づくと考えます。今後目標に向かって仲間と共に努力していきたいと思ひます。

北陵祭スナップ

今年の北陵祭、地域と共に歩む姿。
バザー、お目当ての物、見つかったかな。
PTAと吹奏楽部の、すばらしいハーモニー。



北陵祭

『北陵祭』での同窓会青年部

平成七年度卒
増淵 和仁

十一月八日に行われた北陵祭では、穏やかな日の中、毎年恒例の青年部特製の『焼きそば』を自分たちの手で調理し、販売を行いました。今年は農場の先生方の協力で、北陵高校の農場で栽培されたキャベツを提携していただき具材としました。おかげさまで準備した七〇〇食全てを完売することができました。昨年は、寒い風の中での模擬店でしたので、今年は少しでも暖かく、そして青年部役員の団結を

ていましたが、やはり全てが終了してからの焼きそばは格別の味でした。来年度も同様の参加を予定しておりますのでよろしくお願ひいたします。



進路状況について

進路指導部長
石 塚 良 典

わが国の経済は、世界的なITバブル崩壊の影響を受けて景気後退局面にありましたが、アメリカ経済とアジア経済の回復、円安による輸出の拡大等により景気回復への期待感が持て始めてきました。

しかし、このようななかにおいても業績の上がつた会社と上がらなかった会社との二極分化が一層進み、業績の上がらなかった会社では、依然としてリストラを遂行し再建を目指しています。

このような環境のなか、新卒者の採用において全体の採用数を減らす企業もあれば、新卒者の採用を再開する企業もありましたが、全体的には高校生を取り巻く就職環境は改善される状況にはありませんでした。

その大きな要因は景気低迷もさることながら、企業が『量』より『質』を重要視した採用に切り替えたことです。

さらに、今まで高校卒を中心に採用していた職場に、大学・短大卒が進出してきていることも要因となっています。

今年度の本校の進路状況については以下の状況です。

「進学について」

大学、短大、専門学校等に百四名が受験し、九十八名が合格することができました。

大学では、千葉大学、東京農業大学、日本大学、共栄大学、埼玉工業大学、八戸工業大学、高崎健康福祉大学、国際武道大学、帝京大学、法政大学、尚美学園大学、専修大学、作新学院大学、相模女子大学、国際医療福祉大学、中央大学に計十八名が合格し、短大では、東京農業大学短期大学部、高山短期大学、武蔵丘短期大学、埼玉国際短期大学、東京富士大学短期大学部、國學院大學栃木短期大学、埼玉短期大学、佐野短期大学、桐生短期大学、足利短期大学、宇都宮短期大学に計十五名が合格しました。

この他、千葉大学園芸別科、栃木県立農業大学校等の教育訓練校に十五名、専門、専修学校には県内外の各分野に五十名が合格しました。

特に、今年度の傾向としては、指定校入試を利用して受験した生徒より、一般推薦入試やAO入試で受験した生徒が多かったことは、「容易に入れる学校」より「自分が必要に行きたい学校」へ生徒が真剣に自分の進路を考えた結果といえるのではないかと思います。

「就職について」

八月末の求人会社数は県内六十八社（昨年八十四社）、県外七十二社（昨年百四十社）と厳しいといわれた昨年度を大幅に下回る厳しい結果となりました。

九月十六日から始まった就職試験では、九十五名が受験し、七十名が合格することができ（合格率七十四％）、一月八日現在で百二名が内定し、内定率八十六・四％（昨年度九十三％）で昨年度を下回る結果となりました。

農業系学科では、農業の専門を生かした職種を中心に多方面の職種に内定をいただくことができました。商業系学科では、求人数が少ない事務・販売職の就職試験に善戦し、

昨年度と同様に内定をいただくことができました。福祉学科では、卒業生の努力により近隣の福祉施設からの評価が高まり、昨年度と同様に多くの生徒が福祉施設への内定をいただくことができました。

十一月末の県内高校生の就職内定率は六十七・二％（昨年六十四・八％）で昨年同期をやや上回っているものの、依然変わらず厳しい状況でした。

幸い本校の内定率は前述のとおり、県内平均を上回る結果となったのも三年生の諸君の努力はもとより、担任をはじめ諸先生方のご指導と、伝統ある本校卒業生の多方面にわたるご活躍の賜であると感謝しております。

平成 15 年度進路状況

平成 16 年 1 月 8 日現在

進 学	大 学							そ の 他			未 定	合 計
	国 4	立 大	私 4	立 大	私 短	立 大	別 専	科 科	専門 学校 専修 学校	職業 訓練 施設 等		
男 子	1(0)	13(10)			4(1)		1(1)		22(31)	10(11)	4(0)	55(54)
女 子	0(1)	4(3)			11(16)		0(0)		28(39)	4(5)	0(0)	47(64)
小 計	1(1)	17(13)			15(17)		1(1)		50(70)	14(16)	4(0)	102(118)
合 計		18(14)							65(87)			

就 職	就 職					在 家 フリーター 無 業	未 定	合 計
	管 内	県 内	県 外	公務員	自 営			
男 子	13(18)	22(22)	5(1)	1(1)	5(0)	2(7)	6(0)	54(49)
女 子	22(15)	31(38)	2(4)	1(0)	0(1)	11(9)	10(0)	77(67)
小 計	35(33)	53(60)	7(5)	2(1)	5(1)	13(16)	16(0)	131(117)
合 計	102(101)							

※（ ）内の数値は昨年度の最終人数

「頑張る北陵生 部活・大会で大活躍」

今年度における部活動等で表彰された主なものを掲載しました。（もちろんここに載せてある以外にも熱心に活動、活躍している部も沢山あります。）北陵生の活躍をご覧ください。

ライフル射撃部

関東高等学校ライフル競技選手権大会

A R 女子 団体優勝(柿沼 貝塚 伴組)
A R 男子 団体 3 位(外崎 高松 岩田組)
B R 男子 個人 1 位 松本慎司
B R 女子 団体優勝(海老原 小竹 瀧組)
ほかに個人で 6 人が入賞

全国高等学校ライフル競技選手権大会

A R 男子 団体優勝(室町 阿久津 塩野谷組)
A R 女子 団体 3 位(柿沼 貝塚 伴組)
B R 男子 団体 2 位(松本 高松 岩田組)
B R 女子 団体 5 位(海老原 小竹 瀧組)
ほかに個人で 3 人が入賞

日韓高等学校ライフル射撃大会

A R 男子 個人 1 位 阿久津昌弘
ほかに個人で 4 人が入賞

関東ライフル射撃競技選手権大会

A R 男子 1 位 阿久津昌弘

J O C ジュニアオリンピック大会

A R 女子 個人 3 位 貝塚有里子
ほかに個人で 2 人が入賞

全日本選手権大会

A R 女子 個人優勝 貝塚有里子
A R 男子 個人 6 位 室町悦久

国民体育大会

出場者 4 名 阿久津昌弘 貝塚有里子 室町悦久 瀧容枝
A R 男子 個人 1 位 阿久津
A R 女子 個人 3 位 貝塚
B R 男子 個人 1 位 室町
天皇杯 6 位

全国高校ライフル射撃選抜大会関東ブロック大会

A R 女子 個人 1 位 貝塚有里子
ほかに個人で 6 人が入賞
5 人が全国選抜大会(3 月下旬)に出場

県高校スポーツ賞 ライフル射撃部男子 受賞

監督 菅谷浩喜

選手 阿久津昌弘 塩野谷則治 室町悦久

県高校スポーツ優秀選手 3 年生 8 名 2 年生 2 名

バドミントン部

関東高等学校バドミントン選手権大会 出場 男子団体

全国高等学校総合体育大会バドミントン競技会県予選 男子団体 3 位

県新人戦 女子団体ベスト 8

優秀選手 野口靖文 野澤 充

陸上部

栃木県ジュニア陸上競技記録会

高校女子 800m 優勝 仲田 睦

関東高等学校陸上競技大会

110m ハードル 3 位 黒古直也

全国高等学校総合体育大会陸上競技大会

110m ハードル 出場 黒古直也

関東陸上競技選手権大会

110m ハードル 出場 黒古直也

栃木県三部対抗陸上競技大会

110m ハードル 優勝 黒古直也

中部支部陸上競技新人大会

棒高跳び 優勝 長山宗史

関東高校選抜陸上競技新人大会

女子 1500m 出場 蒲原佑香

弓道部

中部支部高等学校弓道大会

男子 団体 3 位

男子 個人優勝 黒古慶太

関東高等学校弓道個人選手権選抜大会

出場 黒古慶太

バレーボール部

真岡市 6 人制総合バレーボール大会 一般女子の部 3 位

吹奏楽部

吹奏楽コンクール B 部門 銅賞

県吹奏楽連盟ソロコンテスト 芳賀真岡支部代表選考会

見目実央(アルトサクソ)金賞 県大会進出

日本音楽部(琴部)

高文連日本音楽部会 春季発表会 優良賞

秋季発表会 優良賞

商業科

関東地区高等学校ワープロ競技大会 出場

全国商業高等学校英語スピーチコンテスト栃木県予選会 2 位 小波津チエミ

農業クラブ

関東地区学校農業クラブ栃木大会 最優秀賞

ポスターの部 黒須奈緒

スローガンの部 池田裕美 広田真人

農業クラブ全国大会秋田大会 農業鑑定競技 優秀賞

農業コース 宮沢明誉

農業機械コース 川田隆弘

その他の表彰

2003 年毎日新聞農業記録賞 優秀賞 岩田貴宏(平成 16 年 1 月 4 日付毎日新聞に全文掲載)

交通安全に関するポスター 鈴木穂美

交通問題ゼロの会 交通安全標語最優秀賞 佐藤春香

芳賀地区芸術祭 俳句 短歌 詩で特選など 9 人入選

生徒会長あいさつ

生徒会長
塩 野 谷 浩

私が生徒会長に就任してから早いもので一年が経過しました。

今、思えば大変貴重な経験をさせていただいたと感謝の気持ちでいっぱいです。私が生徒会長になるきっかけを作って下さったのは、担任の先生からの勧めでした。

軽い気持ちで引き受けてしまいましたが当初、「何をしたいのか」「何を話せばいいのか」と不安な気持ちでいっぱいでした。

実は、私は人前で話をするのが苦手でした。そんな私が全校生徒の前であ

いさつをするこ自体、信じられず本当に緊張しました。

また、北陵高最大のイベントである「北陵祭」は、今年は、意見箱にたくさん

の意見や要望が出され、顧問の先生方や実行委員は、何日も前から夜おそくまでどうしたら「北陵祭」を盛り上げられるか

など話し合いや準備をしてきました。当日、たくさんの方に

にご来場していただいた時は、本当に頑張ってきた良かったと思

いました。

生徒会活動の中でコミュニケーションの大切さ、まかされた仕事は最後まで頑張るそして人を思いやる心が実感しました。本当に一年間ありがとうございました。

農業クラブ活動を振り返って

農業クラブ顧問
野澤 裕 治

今年度は、農業クラブ活動における重点課題として、普段の学習の成果が問われる農業鑑定競技への指導の工夫を掲げて取り組んで参りました。また、全国大会において、本校農業クラブ活動の事例発表をする機会を得ることができました。先輩方から受け継がれてきた農業クラブ活動を振り返る良い機会となりました。

更に、第五十四回関東地区学校農業クラブ連盟大会が本県で開催され、プロジェクト発表B・C部門の運営を担当しました。この他にも、伝統ある本校農業クラブ活動の一年間を振り返ってみたいと思います。

校内意見発表会では、各クラスから代表一名が選ばれて、計九名の生徒が出席し、普段考えている自分の意見を七分の持ち時間で十分に発表しました。どの生徒も大変すばらしくしっかりとした発表内容でした。

その結果、最優秀賞に岩田貴宏さん、優秀賞に岡田梨奈さん、秋山享洋さん、藤沢健太さんがそれぞれ選ばれました。

校内農業鑑定競技会では、各学科にわかれてコースが設定され、普段学んでいる専門知識について、四十問の問題に挑戦しました。農業コースでは、実験器具や植物の病気、

その結果、大塚通さん、青柳陽介さん、山田真人さん、関貴義さんが優良賞をいただきました。

小山市立文化会館、栃木農業高校及び小山市生涯学習センターにおいて行われた第五十四回関東地区学校農業クラブ連盟大会では、本校の代表生徒の出場はありませんでしたが、プロジェクト発表B・C部門の運営を担当しました。

秋田県で行われた第五十四回日本学校農業クラブ全国大会は、約六千五百名の参加者により盛大に開催されました。今年度は農業鑑定競技会、クラブ員代表者会議における事例発表にそれぞれ参加してまいりました。農業鑑定競技会に出場する生徒は、夏休みもほとんど学校にきて学習に取り組んでいました。また、事例発表の生徒も、本校農業クラブ活動の実践内容に

ついてまとめて、プレゼンテーションを作りました。そして、発表練習に励んでいました。

その結果、農業鑑定競技会農業コース及び農業機械コースにおいて優秀賞を受賞することができました。

十一月に行われた収穫祭はグラウンドにおいて野外炊飯（カレーライス作り）を行いました。こう見ますと、一年間様々な活動をしてきたが、生徒にとっては大変意味のある活動内容であったと思います。大会の成績につきましては、必ずしも満足のいくものではありませんでしたが、今後更に努力していきたいと思ひます。



農業鑑定競技会に出場して

三年二組
川田 隆 弘

私は平成十五年十月八日から九日にかけて秋田県で行われた第五十四回日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技会に出場しました。農業鑑定競技会は、農業、園芸、畜産、生活科学、食品科学、農業土木、林業、造園、農業機械の九つのコースに分かれており日頃の勉強で学んだものを生かし、出題された問題を次々と解いていくものです。その中で私は、農業機械コースに出場しました。

私達北陵高の生徒は、大会の前日に秋田県に向かいました。秋田県に着き昼食を済ませ、私は農業鑑定競技会の会場となる秋田県立金足農業高等学校へ下見を兼ね見学に行きました。学校の敷地内に入った瞬間、野球部

の練習風景が第一に目に

入りました。金足農業高校は今年の夏の甲子園出場校という事もあり、気迫溢れる練習をしていました。他に農場など色々な施設を見学し、私の中でもとても良い印象を受けた学校でした。その後私は宿泊先となる旅館へ向かいました。旅館に着き部屋へと入り込みました。他校の人達と同じ部屋で、意外とすぐに打ち解けることができました。夜は仲良くあった人達と色々な話をしたり、翌日の農業鑑定競技会の勉強など、とても刺激を受けました。

そして翌日、大会の日が来ました。会場へはバスで向い、長い道程を経て着きました。早速受け付けを済ませて控室へ入ると大勢の人達がいて、

皆必死で資料を開き最後の見直しをしている様子でした。しばらくすると競技が始まり控室を出ると、二十秒ごとの鐘の音が聞こえてきました。自分の番が来て、農業鑑定競技中は無我夢中で問題を解いていたため、あつという間に終わってしまいました。結果発表は次の日だったために、その日は不安を残しながら旅館へ戻りました。

翌日、大会速報が配られる時間が来ました。速報を見るとなんと自分の名前が載っていました。最優秀賞までとはいきませんでしたが優秀賞を取る事が出来て、とても嬉しかったのです。

高校生活最後の秋に良い思い出が出来たのは、一緒に資料を集めて下さったり、分からない事を熱心に教えて下さった先生方のおかげだと思っています。ご指導本当にありがとうございました。

家庭クラブ活動を通して

三年六組
橋本 実 季

家庭クラブ活動は、私を多方面から刺激と感動を与えてくれ、成長させてくれた大変良い活動だったと思います。

前会長さんから受け継いだ事を心に留め、よりよい活動となるよう取り組んでまいりました。調理講習会では、家庭クラブ役員がメニューを決定するのではなく、できるだけクラブ員（六組）の意見を取り入れるようにアンケートを取りました。

現在は参加者が六組のみなので、他のクラスにも参加を呼びかけてクラス・学年を超えた交流ができる楽しい活動となつて欲しいと思います。北陵祭では、校内で販売されているジュー



人数が違うのであらためて全国大会なんだと実感しました。

開会式が終了し、代表者会議が始まると、初めに名刺交換を会場の方達と行いました。これも、会議の中で大切な役割を果たしている事です。そして、私は、前日の点を反省しながら、発表を行い、その発表のテーマを元に、メモを取りながら話し合いをし、会議の最後に、各グループごとに発表をしました。どの

クラブ員代表者会議に参加して

三年一組
水 沼 瞳

私たちは十月八日から九日にかけて行われた、第五十四回日本学校農業クラブ全国大会に行つてきました。大会に参加すると、プロジェクト発表、農業鑑定競技のように審査される種目ではありません。

代表者会議は、各単位クラブの代表が集まり、テーマに沿って話し合いをし

ます。その話し合いの切り口になるのが事例発表であり、私達が取り組んできた農業クラブ活動についての発表です。

リハーサルのため、大会前日に秋田に着きました。会場では、当日の具体的な内容などを聞かされ、その後、事例発表をするリハーサル会場へ行きました。会場には、

大会当日、会場に着くと、全国から集まった農業クラブ員の方々がたくさんいました。前日とは

学校もそれぞれ違った意見がたくさん出たのでとても参考になりました。

今回、この大会に参加して本当に良かったと思っています。とても貴重な体験であり、思い出深いものになりました。全国大会まで指導やアドバイスを下さった先生方、本当にありがとうございました。

平成15年度
家庭クラブ活動内容

顧問 加藤 洋子

家庭科の学習の中で学ぶことは、人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、家庭クラブ活動等とおして男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることです。それは、身近な問題に気づくことから始まりま

す。環境について学んだら分別ゴミ処理について考える。家庭クラブ活動の一環として、毎週火・木曜日の2日間、アルミ缶の回収を実施しています。収益金については年間に7、8千円程度ですが、できるだけ全校生徒に還元できるよう役員たちが考えています。

食物を学んだら郷土料理の調理方法や季節の料理を考えた



行事食をテーマにフードデザインを考たりするなど、無限にできてきます。また、今年度の学校祭では、活動内容の紹介はもちろん「ユニセフ募金」

二月 三年生を送る会
三年 家ク役員研修会
* 随時家ク役員会
* 火・木アルミ缶回収
このような活動が活発に実施できるのは、本校の歴史・伝統と先生方をはじめ、地域の皆様方の協力、支えがあったからこそと深く感謝しています。そのお陰で一人一人成長してきたように思います。

農業鑑定競技大会に参加して

三年一組 宮 澤 明 誉

十月七日から九日にかけて秋田で行われた第五十四回日本農業クラブ全国大会農業鑑定競技会農業コースに出場しました。この鑑定競技の部は、農業、園芸、林業造園、生活学科、農業機械、食品化学、畜産、農業土木のコースに分けられており、それぞれの専門教科の知識を競うものです。

秋田に着いてまず私達は、明日の競技会場である金足農業高等学校へ向かいました。校内を見物していると金足高校の生徒の人達は、元気なあいさつで私達を迎えてくれました。金足高校も北陵と同じように緑にかこまれた活気あふれる学校でした。校内を一通り見終えて、明日どんな問題がでてくるのだろうかと思像していると、自然と緊張が高まってきました。そして大会当日を迎え、受付を済ませて中へ入ると大勢の人がいて、みんな必死で資料を開き最後の見直しをしている様子



海外研修報告

オランダ農業研修に参加して

二年一組 廣 田 真人

不安と期待を持ってオランダの地を踏みました。不安の材料は、二週間のホームステイに戸惑いがあつたからです。しかし、ステイ先の人の優しさや先生、メンバーのサポートのおかげですばらしい体験をすることが出来ました。

私のファームステイ先はREMMELTSさん家族でした。お父さんの搾乳牛70頭、育成牛50頭を飼育し、40ヘクタールの畑でコーンを作っています。農場の大き

オーストラリア研修を終えて

一年二組 岡 田 梨 奈

成田からの便、直でオーストラリアのメルボルンへ。天気は曇り。「オーストラリア」という「日本」ではない異国の地を踏み、まず思ったのは、「すごい」。

私がこの研修に参加した理由は、日本を出て、他の国の農業を見てみたいという理由からでした。この研修を通してたくさん学ぶことができました。何もかもが日本と違いわくわくどきどきの毎日でした。農場は広く、牛や馬、羊も日本とは比べられないくらいたくさんいました。とにかく何もかもが大きな国でした。毎日楽しかったのですが、とても楽しく勉強になったのは、ファームス

さやトラクターなどの機械の大きさに大変驚きました。私は朝、夕2回のミルキング、牛の餌やり、ガーデニングの芝刈りを中心に充実した作業を体験させていただきました。朝のミルキングは6時30分から9時、夕方は6時から9時と1回のミルキングに約3時間程度の時間がかかりました。予想以上に1日の実習の量が多かったと思いました。しかし、作業の一つ一つにトラクター等の機械を使い効率のいい仕事をしていた。またフリータイムにはロリンダやハリアナ達とテレビを見た

もきれいで、挙げだしたらきりがなくらいオーストラリアはいいところでした。オーストラリアが大好きです。めったに行けない海外。オーストラリアの方々に感謝ですが、高いお金を払って海外へ行ってきてくれた両親に感謝です。今度は、自分でお金を貯めて、家族でオーストラリアに行きたいなあと思いました。

一年六組 澤 井 美穂

今回、私はこのオーストラリア研修に参加して、オーストラリアの文化や福祉、歴史などについて学ぶことができました。私は今まで、オーストラリアはほとんどが砂漠で、緑が少ない国だと思

っていました。しかし、実際の町の中は日本では見たことのないくらい青々とした緑がいっぱいで驚きました。研修に行き、英語が苦手な私は、うまくコミュニケーションがとれるかととても不安でした。

老人ホームの中を初めて見た時、本当に、ここは老人ホームなの、と思ってしまうくらい、利用者に活気があり、私たちがこの施設でミニコンサートをさせていただいた時も、たくさんの方が集



ことができません。オランダの台地を踏みしめて、そこでの体験や新たな発見は、私にとつてとても意味のあることになると思います。そのオランダ研修で学んだことを、これからの高校生活に生かし、精一杯勉学に取り組みしたいと思います。最後にになりましたが、このオランダ研修でお世話になったREMMELTSさん、今までご指導いただいた先生方や関係者の方々、そして最後まで応援してくれた両親に感謝いたします。本当にありがとうございました。

オーストラリアの老人ホームを訪れ、日本と違う部分や良いところ、感じたことを忘れずに、これから日本の福祉に足りないものを考えていきたいなと思います。

オーストラリアへ研修に行き、多くの知識を得ることができたと思います。これから先、この研修で得たものを、自分の進路に役立てていきたいと思っています。

生徒会活動を振り返って

生徒会長 塩野谷 浩

私が生徒会長になって早くも一年が経過しました。今思えば大変貴重な経験をさせていただいたと感謝でいっぱいです。

生徒会活動の具体的な内容として益子養護学校との交流会がありました。交流会では花の鉢植えとカレー作りを行いました。そんな時間を過ごす中で感じたことは、益子養護学校の皆さんは、感情豊かで素直な心を持っていてるなあと実感したことを覚えています。



の特権です。

今年の学校祭は十一月八日「燃焼系北陵式」のテーマのもと、盛大に開催されました。今年も同窓会の皆様には、私たち生徒のため暖かいご支援を頂きまして誠にありがとうございました。今年も、皆さんの意見や要望が出され、昨年とは一味違った学校祭に仕上がりました。その一つに、吹奏楽部と保護者と一般のお客様との合唱など楽しんでいただけたことと思います。また、私たち生徒が育てた農産物や草花手作りパンなど売れ行き続出したこと、来場になった皆様に大変ご迷惑をおかけしたことも多くあったことと思います。

これらの生徒会活動で、私は人とのコミュニケーションの大切さ、与えられた仕事の責任感を学びました。それらの経験を通して私自身が大きく成長したような気がします。最後に、お世話になりました先生方、生徒会役員の皆さん本当にありがとうございました。



ライフル射撃部

「目標を達成できた日」

三年五組 伴 千草

私達ライフル射撃部は、顧問の菅谷先生、山本先生のご指導のもと毎日練習に励んでいます。

私達は昨年のインターハイで大きな目標を果たす事が出来ました。それは「団体全種目入賞」です。今までの北陵射撃部の歴史を一つ塗り替える事が出来ました。

エアライフル男子団体「優勝」ビームライフル男子団体「第二位」エアライフル女子団体「第三位」ビームライフル女子団体「第五位」。他にも個人で優勝した人もいます。

団体戦は3人の合計点数で競われます。この大会は、三日間をかけて一人ずつ試合に臨む事になり毎日が戦いでした。

私は3人の中の2番目という事で、もうすでに一人目の点数は発表され、今までの大会とは緊張感が違いました。「真岡北陵」という名を背負っているだけで周りの見方は違い、改めて凄さを実感しました。全国で戦うのは初めてだったので「自分



分らしい射撃が出来れば」と思っていたのですが、なかなか思い通りにはいきませんでした。試合中後ろを振り返ると仲間が居てとても落ち着き、安心感がありますが、それ以上に皆さんのライバル達が鋭い目で試合の行方を凝っていました。私達はこの大会の為に暑い夏の日も、寒い冬の日もお互いをライバルと思い切磋琢磨してきました。他の部よりも練習量は多い事で有名です。初めは「なぜこんなに」と思っていました。成績を残し全国に名を残す為には当たり前だったのです。「この練習に耐えてきた者こそ思い出が残る」と顧問の先生に言われていました。

高知で行われた今回の大会は真夏で室内40℃を越えた暑さの中で行われました。こんな気候の中でも素晴らしい結果を残す事が出来たのは日頃からの練習メニューのおかげです。私達の団体は3人共自分の練習してきた成果を十分発揮する事が出来ず、たくさん涙を流しました。それは、「きつ」と練習通り撃つ事が出来たら優勝を狙えたかもしれない「そんな気持ちがあったからです」。

見事初優勝をした先輩達は、表彰式の時に今まで見た事もない程大きな楯をもらい、真岡北陵高校に持ち帰ってきました。その楯を見た瞬間、私の中で大きな目標が生まれました。「あの楯を今度は自分でも持ち帰ってきたい」この目標を果たす為にまた一からの練習に励んでいます。今の「真岡北陵射撃部」の輝かしさよりもっと大きく輝かせるために。もっと「真岡北陵」の名を日本に残すために。

今回の国民体育大会では、私達の先輩や仲間が「また、真岡北陵が」と周りのライバルを驚かすような結果を残してきました。

この真岡北陵高校からは、4人の生徒が大会に参加し、三冠を達成してきました。他にもいくつかの競技があり、真岡北陵生としての実力を見せつけた試合をしてきました。この大会は、県同士の戦いでもあり、栃木県は今までの歴史にない、前代未聞の「第六位」という事で栃木県自体を有名にして帰ってきました。

こんな素晴らしい仲間と共に、日々の練習を大切にしたいものです。

バドミントン部

「夢の関東大会へ」

三年三組 野口 靖文

私がバドミントン部に入部したとき、男子団体戦は1回戦を勝ち抜くこともできませんでした。

しかし、顧問の先生は口癖のように「関東大会へ行こう」といっていました。確かに戦力から考えると、無理ではないとは思いましたが、県ベスト4の壁は分厚く、そして果てしなく高く感じたものです。

戦力外であった私は、入部まもなく、肘を故障しました。完治まで3ヶ月。できる練習といえばラケットも持たず、ひたすらフットワーク。やつとラケットが握れるようになって、ハードヒットはできず柔らかくタッチするだけでした。

この真岡北陵大会から参加し、三冠を達成してきました。他にもいくつかの競技があり、真岡北陵生としての実力を見せつけた試合をしてきました。この大会は、県同士の戦いでもあり、栃木県は今までの歴史にない、前代未聞の「第六位」という事で栃木県自体を有名にして帰ってきました。

私たちが琴部は、今年秋に立派にリフォームしていただいた同窓会館を使わせていただきながら練習に励んでいます。素晴らしい環境と、今年からお迎えした講師の長峯朋子先生の素晴らしい指導により、今年の秋の全国予選では、多少の手の狂いはあったものの今までの中で最も良い演奏をすることができました。春に三年生が引退され、琴歴

思いはこの頃が一番辛かったと思います。後に、顧問曰く「この3ヶ月で正しいラケットワークと、フットワークを身につけることができた。よく頑張った。」おっしゃっていました。

さて、私が部長になって、いよいよ関東大会予選が始まりました。正直、選があまりありません。また負けるかも、という気持ちもありましたが、そんな気持ちを吹き飛ばすために、私たちは日頃から声を出し、目標を「全国制覇」としました。普段からの意識改革の1つです。実力は十分にあつたので、大会で発揮できなかった意味がありません。

そして、私たちはノースードから次々と勝ち上がり、ついに男子団体県4位となり、23年ぶり関東大会出場権をもち取りました。戦っている間、会場で一番大きな、女子の応援が本当に嬉しく、パワーがでました。コートに入るときは1人または2人ですが、バドミントンは本当に団体競技なのだと思いました。



北陵高校バドミントン部の飛躍を祝いました。

夢の関東大会では、開会式からとにかく素晴らしい。私たちが勝ち抜いてきた戦いを称えられるように正直鳥肌が立ちました。結果は1回戦負けでしたが、実力では上の茨城県4位霞ヶ浦高校に、第1ダブルスがファイナルセット負け、シングルスがファイナルセット勝ち、第2ダブルスが点差の惜しいストレート負けとなりました。とても残念で涙する部員もいました。出場するためだけの関東大会ではなかったのだと改めて思いました。

最後にお世話になった顧問の飯塚先生をはじめ、多くの先生や家族、そして友人に最大の感謝の意を表して、文を締めくくりたいと思います。

「集合！」「ありがとうございましたっっっ！」

編集後記

本年度は生徒の部活動等で大変な活躍があり、北陵高校の存在を全国的に知らしめた年でありました。

激動する内外の諸情勢の中でも、地域にしっかりと根を張った学校や、地域社会で活躍する同窓生の様子を伝えられるよう努力しました。

ここに協力感謝申し上げます。

編集委員

井野 博 井沢 誠
館 芳衛 広田茂十郎
猪野正子 田崎秀一
服部和子

